

ふるさと再発見！

vol. 21

ほろほわかやま

FREE



巻頭
特集

灯台が見守る海上の絆

～ いざ、岬の先端へ ～

散策

ものづくりat和歌山

わかやま魅力発信人

I♥WAKAYAMA 私の和歌山

海の歴史と異国情緒 檜野埼で潮風散歩
紀州漆器 ～クラフト×デジタル 響きあう伝統と革新～
マエオカテツヤさん ～妖怪でまちおこし～
魅力たくさん 串本町 ～串本町長～
田嶋 勝正

いざ、岬の先端へ

灯台が見守る 海上の絆



紀州は海の国。母なる黒潮は県民に多くの恵みを与え、時には激しく牙をむいてきた。県内各地の灯台は、そんな海の暮らしや事件を見守り続ける守護神だ。灯台の数だけ海のドラマがある。いざ、岬の先端へ。灯台めぐりの旅に出かけよう。

最初の洋式灯台

日本で洋式灯台の建設が計画された際、その「最初の灯台」8基のうち、2基は和歌山の灯台だった。潮岬灯台と、檜野崎灯台（紀伊大島）だ。計画は慶応2年（1866）の条約に記され、翌年に結んだ別の条約では、紀伊水道の友ヶ島灯台が加えられた。

それだけ多くの船舶が航行する要衝だったということだろう。そのため、県内の灯台の周辺には、歴史を伝える碑やモニュメントが建っている場合が多い。そのなかで最大のものは、やはりエルトゥール号の遭難事件だろう。

エルトゥール号遭難事件

オスマン帝国（現在のトルコ共和国）の軍艦エルトゥール号は明治23年（1890）、日本からの帰途、檜野崎東方の岩礁に激突し、座礁。乗組員580人以上が

遭難した。

数名の生存者が檜野埼灯台下に流れ着き、灯台守が応急手当を施した。さらに、通報を受けた大島村（現在の串本町）檜野の住民は、総出で遭難者の救助と生存者の介抱に当たったという。

翌24年、遭難者の墓碑と追悼碑が建立された。昭和4年（1929）には、トルコ共和国の初代大統領が新しい慰霊碑の建立を決定した。

トルコ共和国と串本町

慰霊碑の建設はトルコから和歌山県に委託されたもので、当時県庁や和歌山市役所の建設に次ぐ大型入札案件だったようだ。落札したのは県内の業者（現在は廃業）だった。県庁や市役所は県外の業者が受注しているの、戦前に県内の業者が建設した最大規模の事業と言える。

除幕式は昭和12年（1937）に行われた。その後、慰霊を通



トルコ軍艦遭難慰霊碑

じて串本町とトルコは友好関係を続けている。現在、慰霊碑周辺の清掃や花植えなどに取り組んでいる串本町トルコ文化協会のアイシエギュル・アルカン会長は、学生の頃から日本文化について学び、日本人と結婚、串本町に移住した。トルコの踊りや料理などを紹介する活動にも取り組み、「串本町はもちろん、日本の各地とトルコの文化の架け橋になりたい」と意気込んでいる。

クヌッセンとサッカーW杯

灯台の働きにより、海上交

通の安全性は大幅に増すが、事故が完全になくなるというのは難しい。ノルマントン号（英）の遭難（明治19年）や、太地町の捕鯨船団の遭難（明治11年）など、紀州近海でも事故が記録されているが、そのなかには、日本人の遭難者を助けようとしたヨハネス・クヌッセンの悲話もある。

昭和32年（1957）、デンマークの貨物船エレン・マーク号が和歌山県日ノ御崎沖の紀伊水道を航行中、徳島県の木材運搬船が炎上しているのを見つけた。エレン・マース

ク号の船員は乗組員の救助作業に臨み、機関長として乗り組んでいたクヌッセンは果敢に海中に飛び込んだが、そのまま波間に沈んだという話だ。紀伊日ノ御崎灯台付近の日の岬パーク内にはクヌッセン機関長顕彰碑と胸像が建てられている。また、平成14年（2002）、サッカーW杯の際には、デンマーク代表が県内をキャンプ地に選び、日高町・美浜町商工会青年部を中心に「デンマークチームを歓迎応援する会」が組織された。



クヌッセン機関長顕彰碑

当時のメンバーの大串泰弘さんは「縁を感じた。当時、クヌッセン機関長の遺徳を伝える紙芝居やリーフレットを

灯台が見守る絆

つくったので、多くの人に彼の勇気ある行動を知ってもらえたと思う」と振り返った。

灯台が見守る海上では、各国と絆が生まれる機会があり、また厳しい環境で生まれた友情は、簡単には失われない。「2010年のW杯では日本と対戦したので困ったが、2018年はすっきりデンマークチームを応援できた」。応援する会メンバーの言葉が、そのことを物語っている。



献花に訪れたデンマークサポーター

わかやまの灯台

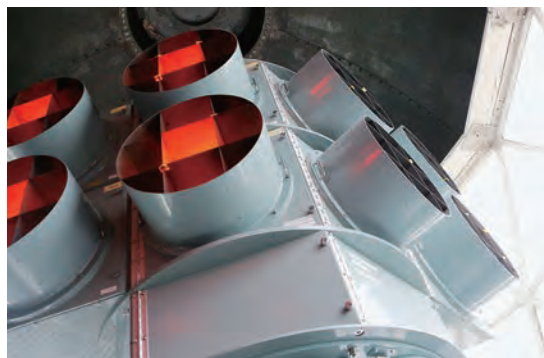
人気スポットの貴重な灯台

友ヶ島灯台

●塔高 12メートル
●初点灯 明治5年6月25日

和歌山市加太沖の友ヶ島にある灯台で、慶応3年（1867）、開港に関連してイギリスとの間に結ばれた大坂条約によって建設された5基の洋式灯台の一つ。歴史的・文化的価値が高いAランクの保存灯台（海上保安庁指定）である。

明治23年（1890）由良要



赤光を放つ灯器



塞第1砲台建設のため、東に約25m、原型のまま移設された。平成14年（2002）に灯器を入れ替え、10秒間隔で白光・赤光を放って海の安全を見守っている。

本州最南端を守り続ける

潮岬灯台

●塔高 23メートル
●初点灯 明治6年9月15日

本州最南端の潮岬にある灯台。慶応2年（1866）、欧米の4ヶ国と結んだ「改税条約」（江戸条約）によって建設することを約束した8基の灯台の一つ。Aランクの保存灯台に指定されており、景観を損ねない改修や保存処置を施されている。

明治3年（1870）6月10日に完成。八角形の木造で、日本初の洋式木造灯台であった。完成から初点灯まで3年の期間があるのは、当初使用予定だったイギリス製の灯器を運搬していた船が東シナ海で沈没したため。

明治11年に現在の石造灯台に改められている。





梶取埼灯台

歴史語る「風見クジラ」

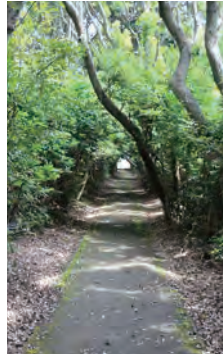
● 塔高 16メートル
● 初点灯 明治32年11月

太地町梶取埼に建つ灯台。

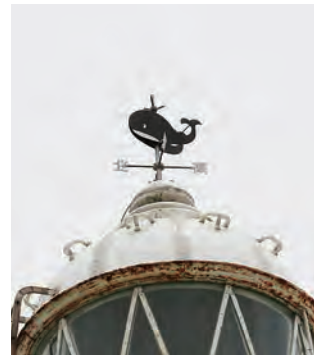
梶取埼にはクジラの動きを見張るため太地浦の5ヶ所に設置された山見番所の一つがあった。すぐ北にある燈明崎には寛永13年（1636）に設置された燈明台があったが、明治5年（1872）に廃止、それによって梶取埼付近の海上交通が不便



クジラの供養碑



になったため、明治32年に建てられた。灯台の頭頂にある風見鶏は捕鯨にちなみ「風見クジラ」となっており、東には古式捕鯨の狼煙場跡が残っている。



屋根の上の風見クジラ

紀伊日ノ御埼灯台

ホトトギス派の灯台長

● 塔高 17メートル
● 初点灯 明治28年1月25日
(2017年に移転)

日高町の日ノ御埼に建つ大型灯台。

戦後の食糧難の時代、灯台長だった内田稲人は妻や娘を失いながら、空襲で壊れた灯台の仮灯をとし続けた。付近の日の岬パークには、ホトトギス派の俳人でもあった稲人と、師で



内田灯台長の句碑



檜野埼灯台

「灯台の父」日本初の設計

● 塔高 15メートル
● 初点灯 明治3年6月10日

串本町沖の紀伊大島東端に建つ灯台。江戸条約によって建設された灯台のひとつで、「日本の灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブランド

ンが日本で最初に設計した日本初の石造灯台である（友ヶ島灯台・潮岬灯台もブランドンの設計）。灯台の周囲には、建設のため招集された灯台技師のイギリス人が植えたとされる水仙が咲いている。平成15年（2003）に国の登録有形文化財に指定された「檜野埼灯台旧官舎」は職員の休息・宿泊のための場所で、これもブランドンが手掛けた。



海の歴史と
異国情緒

檜野埼で潮風散歩



本州最南端・串本潮岬と向かい合うように浮かぶ県下最大の島「紀伊大島」。黒潮が打ち寄せる豊かな自然に恵まれたこの島の東側に位置する「檜野地区」は古くから海上交通の要所として知られている。

今回は、日本とトルコが友好関係を結びきっかけとなった「檜野埼」を歩く。

スタート地点のバス停「檜野」から約700mで「日米修好記念館」がある。日米修好と言えはペリーの黒船来航を思い浮かべるが、それより62年も前にアメリカ商船がこの地を訪れていたそう。記念館から案内板にしたがって遊歩道へ。ツバキやウバメガシの枝が生い茂る緑のトンネルを抜けた先の眼下に広がるのは「海金剛」だ。鋭く切り立った岩々が海面から突き出す光景は圧巻で、遠くにはこれから向かう檜野埼の灯台まで見える。

好関係を知ることができる。

そこから約200m先の「トルコ軍艦遭難慰霊碑」へ向かう。途中のトルコ雑貨店にある色鮮やかな品々は見ただけでも楽しい。

慰霊碑は遭難事故現場を真下に見下ろす丘にあり、周辺は清掃されて花が手向けられていた。慰霊碑をあとにして別のトルコ雑貨店の前を通り、橋を渡った広場の中央には「アタテュルク騎馬像」がある。その先に白亜の灯台が見えた。

「檜野埼灯台」と「檜野埼灯台旧官舎」は明治3年(1870)に建てられた。灯台の展望スペースからは太平洋のパノラマ眺望が広がり、遙かに水平線がかすむ。眼下に打ち寄せる波しぶきを聞きながら、檜野の海で起こったできごとに思いを馳せて帰路についた。

トータル3.5kmの道中は人もまば

エルトゥール通り

ERTUĞRUL SOKAĞI
ERTUĞRUL STREET

トルコ記念館

Turkish Museum

150m

トルコ軍艦遭難慰霊碑

Ertuğrul Monument

350m

檜野埼灯台・旧官舎

Kashinozaki Lighthouse
Former Keeper's Residence

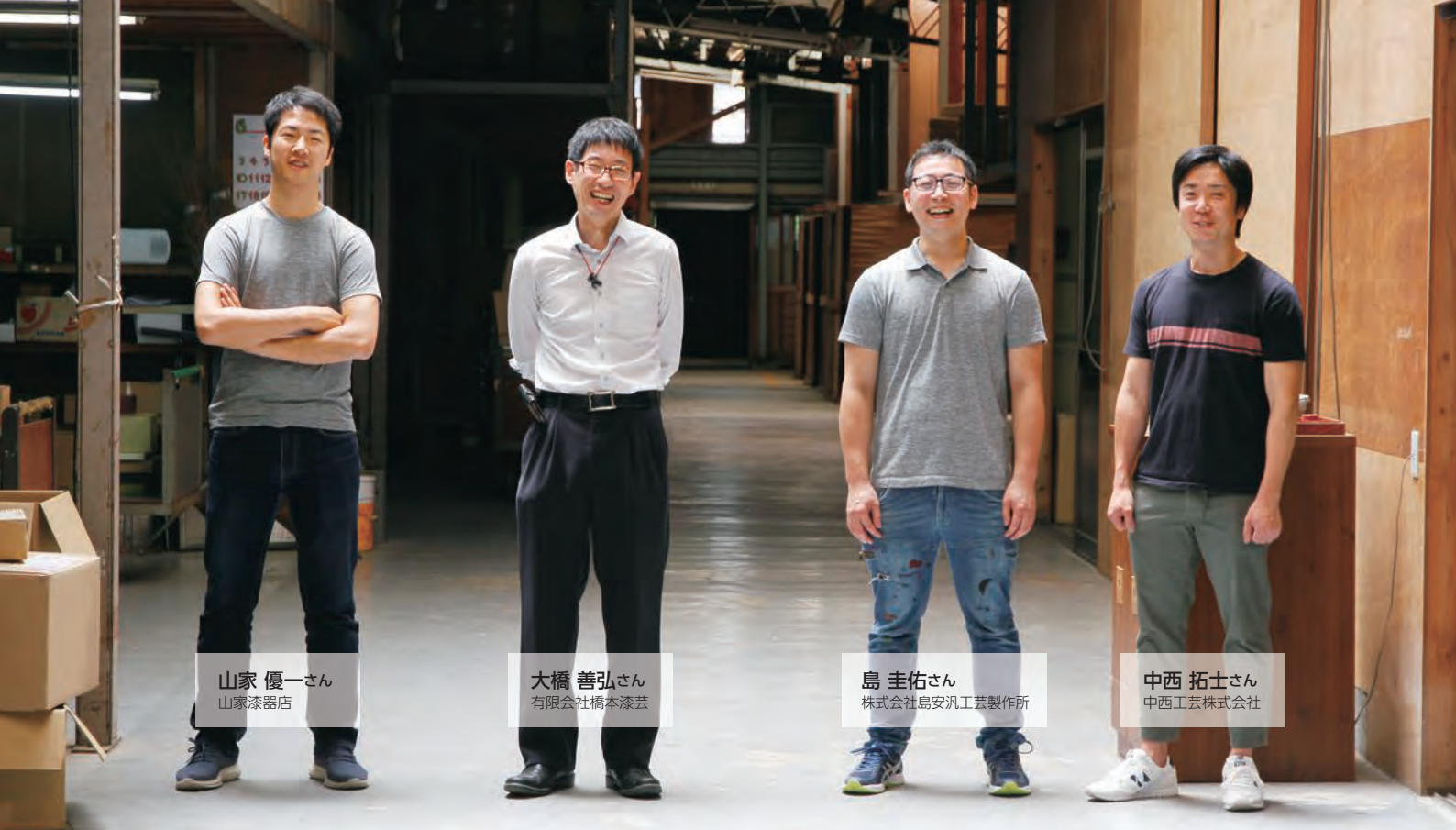
450m

檜野埼の鯨山見

Whale lookout at Kashinozaki Cape

450m

らで、海が近いところでは波音と潮風を感じることができ。橋杭岩や本州最南端の潮岬から十数km足をのびして、檜野の地を一度訪れてほしい。



山家 優一さん
山家漆器店

大橋 善弘さん
有限会社橋本漆芸

島 圭佑さん
株式会社島安汎工芸製作所

中西 拓士さん
中西工芸株式会社

クラフト × デジタル

響きあう伝統と革新

海南市黒江地区を中心に生産される「紀州漆器」。伝統工芸品のイメージが強い漆器づくりだが、近年その伝統を乗り越える動きが加速している。

ものづくり
at 和歌山
紀州漆器

「KISHU+」
漆器づくりの新潮流

紀州漆器は、会津漆器、山中漆器、越前漆器と並び、全国四大産地の一つに数えられる。戦後、国内需要で成長してきた紀州漆器であったが、最盛期は約600あった組合数も現在は約130にまで減少。売上の減少だけでなく、後継者不足という問題も重なっている。そんな中、国内だけでなく海外へと目を向け、漆器づくりの新しい可能性を探る動きが2016（平成28）年にスタートし

た。紀州漆器に携わる企業が共同で立ち上げたブランド「KISHU+」だ。同ブランドは、株式会社島安汎工芸製作所、中西工芸株式会社、株式会社若兆、有限会社橋本漆芸の4社によって立ち上げられた。2017年には山家漆器店が加わり、現在は5社が参加している。

「今ある漆器ではなく、新しいものを世界に広めていこう」という思いから、東京の



蒔絵の新しい捉え方に挑戦した
ルームライト「SHIZUKU」



どの製品にも職人の技術が注ぎ込まれていることは変わらない

デザインスタジオ「TAKT
PROJEKT」の協力を
得て、ブランドづくりから出
発した。「自分たちの限界を越
えるために、まずは漆器業界
の常識を横に置いておくこと」
(山家さん)を重視し、デザイ
ンチームのアイデアを忠実に
実践することから始めた。

今に生きる紀州漆器の哲学

漆器づくりでは協業体制が
一般的であり、木工は木工専
門の、蒔絵は蒔絵専門の技能
を持ったスペシャリストが協
働して、一つの製品を作り上

げていく。

その中で、紀州漆器の特徴
は、「伝統にとらわれない」
姿勢にある。機能性や手軽さ
を重視し、戦後いち早くプラ
スチック材料や合成塗料に着
目。木に漆を塗る＝漆器とさ
れていた常識を覆した。「漆
器は芸術作品ではなく生活に
生かされる製品」という姿勢
は現在の漆器づくりにも生き
ている。

変わり続ける技術 変わらない姿勢

「KISHU+」のブラン
ドコンセプトは「先端工芸」。
伝統的なクラフトマンシップ
を重視しながらも、そこに機
械加工やデジタル技術を取り
入れることで、これまでの漆
器づくりを一から見直した。
「戦後の取り組みに代表され
るように、この産地には時代
に合わせて自身を変革する土
壌があります」と中西さんは
教えてくれた。

日本では主に食器として使

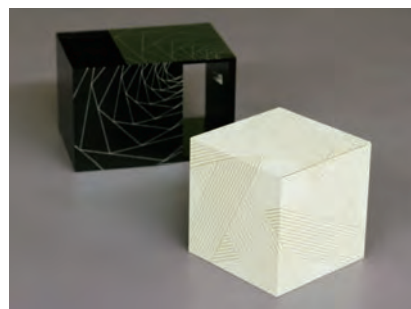
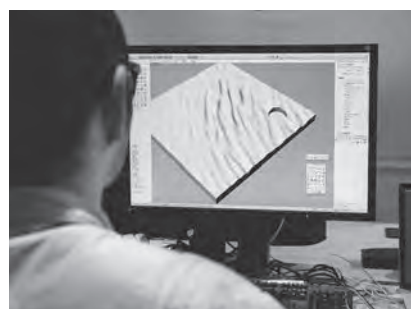
われる漆器だが、海外ではそ
の文化はない。そこで、同ブ
ランドは漆器づくりの技術を
生かしてインテリア雑貨の製
作を計画。コンセプトに沿っ
たプロダクト開発のため、ま
ずはコストや量産体制を度外
視した10種類のアイテムを
作り出した。ルームライト

「SHIZUKU」では、蒔

絵の技法を従来のような装飾
としてではなく光を反射させ
る機能として捉えた。一つ一
つ手で描かれた蒔絵に反射さ
れる光からは多彩な表情が読
み取れる。「単に伝統的な技
法と素材にこだわるのではな
く、本物とは何かと問い続け
て、一つ一つの工程の意味を
問い直すこと。それがこの産
地が大事にしてきた姿勢では
ないでしょうか」と大橋さん。

強く愛される 強い産地になるために

「KISHU+」の歩みは



左 デジタル技術で自然の水面を抽出し、3D プリンター表現する「MINAMO」。

ロウソクは灯台を見立てている

右上 デジタル技術を取り入れることで、伝統の手仕事に新しい意味を与える
一定の角度から眺めることで立体的なパターンが浮かび上がるストレージ
ボックス「SAKKAKU」

まだ始まったばかり。国内の
展示会に加え、2018年
には国際的なインテリア見本
市「メゾン・エ・オブジェ」
に出展。今後、一般販売に向
けた生産体制を整えていく予
定だという。「KISHU+」
の目指すもの、それは紀州漆
器を世の中に必要とされ続け
る強い産業にすること。「自
分たちの活動が、日本の漆器

を見直す一つのアイデアに
なって欲しい。それ以上に、
和歌山から世界を驚かせるよ
うなもののづくりがしたい」と
鳥さんは語った。

【KISHU+】

WEB:www.kishu-plus.jp

MAIL:info@kishu-plus.jp

TEL:073-482-7630

(橋本漆芸：大橋)



妖怪でまちおこし

本号より和歌山県の良いところ、すてきなところを発信する

「魅力発信人」の紹介をしていきます。

第1回目は漫画家、イラストレーター、
脚本家など多岐にわたって活躍する
マエオカ テツヤ氏にお話を伺った。



思ったことは
まずやってみる！

マエオカ氏は和歌山生まれの和歌山育ち。高校時代からの夢である漫画家になるため一念発起し、大阪にあった漫画の専門学校へ進学する。

卒業後、入社した出版社で編集の仕事に就くが、捨てきれなかった漫画家の夢を目指す。見事、デビューを果たし、出版社編集と二足のわらじで活躍。14年前に和歌山へ拠点を移した今も様々な分野で活躍している。思いついたことをやってみるの精神で突き進んできたが、周りの人にも恵まれ、大変感謝していると語る。

多趣味で突き詰める性格

マエオカ氏は南米産のナマズを繁殖させるといって変わった趣味を持っている

おり、繁殖の記録を何気なく専門誌に投稿し続けていた。少し経って、友人で落語家の桂枝曾丸さんと日本人移民に落語を聞いてもらおう活動に取り組む中、アルゼンチンへ訪問する機会があった。

イグアスの滝に近い日本人開拓村を訪問した時「バークレーマエオカ！」と凄い歓迎をされたことがあった。裏方の自分がなぜこんな歓待を受けるのか不思議に思い聞いてみると、投稿していたナマズの繁殖データがアルゼンチンで有効利用されており、その筋では超有名となっていた。バークレイ（ナマズ）マエオカという異名がアルゼンチンで広まっていたという面白エピソードだ。



マエオカテツヤの和歌山妖怪大図鑑
ニュース和歌山発行
A5 変形判・オールカラー 160 頁
価格 999 円 (税込)

だいたい町には
妖怪がおんねん

子供の頃から妖怪が好きで、自分だったらこう描くなど思っていて趣味で書き溜めていたイラストが、ニュース和歌山で連載されることになった。妖怪の背景には、その土地土地の歴史や文化が深く結びついており、そのことを大人に紹介できたらと考えていた。予想に反して子供に大人気になってびっくりしたという。

連載から2年後に『マエオカテツヤの和歌山妖怪大図鑑』（ニュース和歌山）を出版することになり、書店でサイン会を開催すると



マエオカテツヤ

1967 年和歌山市生まれ、漫画家、イラストレーター、エッセイスト、タレントなど、幅広く活躍中。代表作に「おじゃま天狗」（スポニチ）「持ち歩きペラペラ和歌山弁」（エンタール出版）等。

親子の行列ができた。「妖怪がこんなに人気があるのなら、妖怪で地域おこしができたらええなと」アイデアを語る先には、和歌山への想いを熱く感じることができた。

和歌山弁って

おもろいやろ。

ル出版）である。いまや盟友である桂枝曾丸さんが演じる「わかやま弁落語」の台本を書いている内に、まとめたらしめろいと思いい、前述の本を出版すると大ヒット。「基本的に港言葉である和歌山弁は、昔の航路で繋がっている土地と方言が似ている。播州（姫路）の方や、泉南の方々から、よく似ちやあると感想をいただいたりした。おい

今後やりたいことは いっぱいある

「突き詰めるとどこかに必ず繋がる…好きでしていることが和歌山の情報を発信することになればええんちゃうかなと思っている。それがムーブメントを起せばおもしろいで！今後

もやりたいことはいっぱいあるで！」。面白おかしくアイデアを語る。マエオカ氏のしかけるムーブメントが楽しみだ。



料
金
受
取
人
払
郵
便

郵便はがき

6 4 0 8 7 9 0

和歌山中央局
承認

4269

差出有効期限
2020年6月
30日まで

和歌山市梶取17-2

株式会社 ウイング
「ほうぼわかやまクイズ
& プレゼント」係



ふりがな				
お名前				
年齢	歳	性別	☒ 男 ☐ 女	ご職業
ご住所	〒			
電話番号				
クイズの答え	1 ・ 2 ・ 3 ※あてはまるものを1つお選びください。			
本誌の入手場所				

※応募くださいました個人情報は、プレゼントの発送及び弊社からのお知らせ以外には使用しません。

日・ト友好の歴史、体験型観光、グルメなど

魅力たくさん 串本町

串本町長 田嶋 勝正



田嶋町長

今号で取りあげて頂きました榎野崎灯台付近では、今から128年前に明治天皇への拝謁を終えたトルコ軍艦エルトゥールル号が座礁しました。その際、島民が献身的な救助及び介護を行ったことが、日本とトルコ友好の原点となりました。串本の海は黒潮の影響で、西側が熱帯の海、東側が温帯の海と一つの町でありながら、二つの特性を持つ希有な町です。また、サンゴ群落の最北限としてラムサール条約に登録された海域があり、ダイビングが盛んです。他にも清流古座川でのカヌー川下り、名勝橋杭岩近くの橋杭海水浴場ではシーカヤックやSUP、フィッシングカヤックなどが体験できます。

さらに世界で初めて完全養殖に成功した本マグロやイセエビなどの海産物に加え、ポンカンやなんとん蜜姫など色々な「食」も楽しめます。

平成28年10月24日には、串本町内の「大辺路」4道【新田平見道、富山平見道、飛渡谷道、清水峠】が世界遺産【紀伊山地の霊場と参詣道】に追加登録されました。

紀勢道の当町への延伸も事業化され、アクセスの利便性が向上します。文化、歴史、体験型観光、グルメなど魅力いっぱい串本町にぜひお越し下さい。



熊野古道

編集後記

11年目に入り、装いを新たに「ほうば」第21号をお届けいたします。どこが新しいのか…、お気づきいただけましたでしょうか？今まで通り、「和歌山の歴史・文化を掘り起こし、郷土愛を育む」というコンセプトは変わりませんが、それらを「人物を通して」、そして、「歴史と文化を今のつながりの中で」表現していこうということでスタートしたのが、それぞれ「わかやま魅力発信人」と「ものづくり at 和歌山」という新しい企画ページです。いかがでしたでしょうか？お楽しみいただけましたら幸いです。

巻頭特集の「灯台が見守る紀州の海」では、和歌山の灯台を紹介しています。当時、日本最古の洋式灯台の榎野崎灯台（紀伊大島）建設に携わった英国人技師 R.H. プラントンは、灯台の周囲に daffodil（ダフオディル＝水仙）を植えたそうです。水仙は英国の春を代表する花。きっと彼は極東から祖国を懐かしんだのでしょうか。それが150年以上を経て、水仙は今、10万本以上にも増えたそうです。春先に咲き乱れる水仙をめでつつ、当時に思いをはせる…、榎野崎灯台の楽しみ方も少し変わりそうですね。ちなみに、そのプラントンの胸像が神奈川県横浜公園にあるそうです。会いに行ってみたくありませんか？つながりを掘り下げようと、面白いほど深みにはまる。和歌山の歴史と文化は、最高ですね。

第21号編集長 岡 京子



印刷物を中心に広報活動をお手伝いする会社です。「ほうばわかやま」の発行や本づくりを通じ、文字による地域文化の振興を目指しています。就職応援BOOK COURSE（コース）の企画・制作も行っています。【沿革】創業1972年。設立1981年。

「ほうばわかやま」発行について

和歌山の歴史・文化を掘り起こし郷土愛を育む一助になればと、弊社が自費で2008年から年2回発行している情報誌です。また、この活動を通して、郷土と社内の活性化の両立を図ることを目的としています。

ほうばわかやまのバックナンバーは弊社ホームページからダウンロードできます。

詳しくはウェブで検索→ <http://w-i-n-g.jp>

お問い合わせ先 ☎0120-136-700

WING 和歌山

協力機関

本誌を作成するにあたり、次の機関・団体にご協力をいただきました。（順不同・敬称略）

串本町トルコ文化協会、デンマークチームを歓迎・応援する会

和歌山海上保安部、田辺海上保安部、串本町

（株）島安汎工芸製作所、中西工芸株式会社、（有）橋本漆芸、山家漆器店

クイズとアンケートで 当たる!!

『マエオカテツヤの和歌山妖怪大図鑑』サイン本を5名様にプレゼント!!

ヒント

本号のどこかに答えが載っています

問題 本州最南端の岬に立つ灯台の名前は？

①地球岬灯台 ②潮岬灯台 ③足摺岬灯台

応募方法

このハガキの各項目をご記入後、切り取って投函（切手は不要です）もしくはメールにてご応募ください。 houbou@w-i-n-g.jp

メ切 2018年10月末日

Vol.20の答えは③六義園でした。



本誌へのご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。